OECDとブラジルの加盟

OECDとブラジルの加盟

加盟の仕組と <u>ブラジ</u>ル

OECDへの 企業参加

CNIの行動計画

結論

審查基準

- 市場/民主主義×戦略的配慮
- 柔軟性

参考にされる側面

新規加盟国は会の調和と投票に影響する。

- 世界の中のポジション(経済/政治) ______
- 特筆点 _______

- コミットメント

加盟にかかるコスト

- 「コストは一定でない」(当該国への利害による) -----
- 年会費、管理費 ——————————————
- リフォーム
 - 資本移動自由化規約
 - 不可視取引に関する自由化規約

BRASIL

- ・ 委員会、会議のリーダー
- G-20, BRICS, 経済規模
- ✓ ✓
- . / / /
- . / / /
- . / / /
- ・ バーゲニング・パワーは低下したか?
- ・ 国連リスク?
- コード+産業・貿易政策+税制+規制

加盟にかかるコスト(続き)

ステータス x 協力

□ 日本 – 戦後脱退メキシコ – NAFTAのバックアップ東欧 – 競争

審査プロセス

- 当該国の決定 x 360°評価
- 選考のバイアス → リフォーム

強制力

- 低い。WTO以下。
- ・ 加盟が難しい
- 加盟後⇒ピアレビュー(査読)

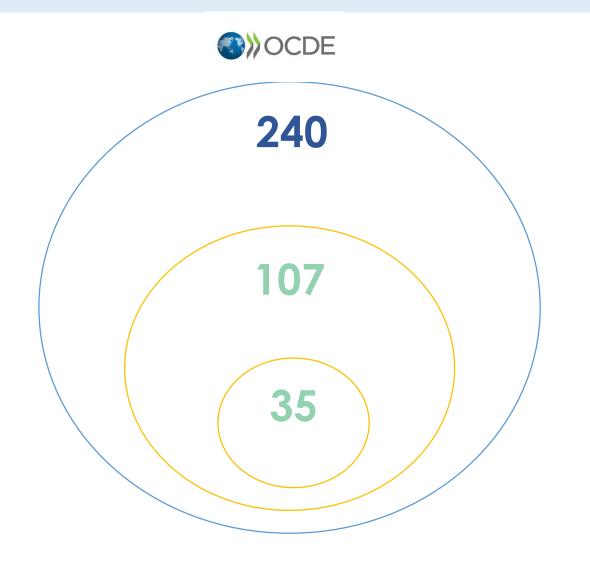
OECDにないもの

- 1. 強制的な基準の発布
- 2. 行政権、政治権力
- 3. 紛争解決機関

機能の仕方(ソフトロー)

- 1. 標準、モデル、提言を出す。
- 2. それらの採用に関しては努力と透明性を求める。
- 3. 不採用は認める一方で以下を求める。
 - ✓ 透明性
 - ✓ 反対の立場の明示(留保)
 - → 反対の立場を明示しない場合、当該国は OECDの標準的立場を自国の法律に取り込む という「正当な理解」を認めることになる。
 - → 留保しなくても、不遵守は懲罰対象にはならない。

法的手段(アキ・コミュノテールーacquis communautaire)



委員会 (30) + 準委員会 + 作業部会 + 専門家部会 + 臨時特別部会= **250**

主要テーマ分野

税制 労働

産業 貿易

投資 起業

開発 イノベーション

経済·金融規制緩和

教育科学技術

環境 腐敗撲滅

持続可能性その他

OECDの貿易に関するテーマ

輸出クレジット

農業

鉄

海運

国内政策

- 規制
- 環境
- 文化
- 地域開発

企業参加



BIAC(経済産業諮問委員会) と TUAC(労働組合諮問委員会)

- 1. CNIは2008年会員に
- 2. OECD加盟に向けたブラジルのエンゲージメント・プログラムの一貫
- 3. BIACから事務局への回答
- 4. 準備、知見
- 5. エンゲージメント
 - 天然資源
 - 鉄
 - 輸出クレジット
 - 税制
 - ・ イノベーション
 - 気候変動



6. 重点

- a) 議論への貢献
- b) ブラジル連邦国税庁のOECD参加促進
- c) ブラジルのルールの欠陥を顕在化する

加盟に関するBIACの役割



- 様々な企業委員会が加盟審査を行う。
- 政府委員会には参加できない(コンフィデンシャル)。
- OECD加盟国・スタッフとの連絡
- 加盟国で事業展開している企業は問題点をリストアップ、機会を生かして改革・変更 の圧力をかける。

加盟プロセスの鍵を握るテーマ

イスラエル → 知的財産

コロンビア → 知的財産と市場参入(薬品)

労働関係、調印

腐敗防止協定、監督庁

政府調達、環境、大型貨物車両の廃棄・輸入ルール、35度以上の

アルコール飲料に対する課税

コスタリカ→ 政府の透明性、企業の内部統制

最重要課題

- 貿易、投資
- 税制
- 加盟各国がOECD 基準に従うことの保証 (例、腐敗防止、多国籍企業行動方針)

主要な政策部会

- 民間企業および公的機関の内部統制、腐敗防止
- 経済政策、金融、貿易、競争力、税制、輸出クレジット、国際投資、ビジネスにおける責任ある行動規範
- イノベーション、開発、電子経済、中小企業と起業、教育
- 環境とエネルギー、バイオテクノロジー、化学、ナノテクノロジー、水、原料

産業に関する国際的な議題

民間セクターのメカニズム

■ テーマ別







■ 国別











税制⇒ブラジルとOECDの特殊事情

- 1. ブラジルがOECDに加盟するためには、税制に関する熾烈な議論が予想される。
- 2. ブラジル連邦国税庁は、OECDの主要基準を導入せず、 留保のプロセスで対応できると考えている節がある。
- 3. 加盟のタイミングでプレッシャーがかかる。
- 4. ブラジルの基準は国際基準と一致しないため国内外での圧力要因となる。
- 5. そのためブラジルは一部税制を改正せねばならず、それが加盟プロセスの争点となる。

6. その他の論点

- ✓ 移転価格税制における固定マージンの柔軟性および相殺クレ ジットの容認。
- ✓ 源泉徴収所得税(IRRF)と特定目的税(CIDE)が過重。(外国の プロバイダー、重税の国との通常取引)、無形資産(ロイヤル ティー、ソフトウェア)の輸入、サービスなどに無差別に課税され る。
- ✓ 恒久施設(PE)の定義。
- ✓ 条約ネットワークRede de tratados
- ✓ 条約に則った紛争解決
- ✓ 連邦会計審議会(CFC-Conselho Federal de Contabilidade)のルール

背景

各国のBEPS(税源侵食と利益移転)への適合および多くの国々が税制改正したためにブラジルの競争力が相対的に低下した。

OECDとブラジルの距離感





ADT(二重課税防止条約): ブラジル型とOECD型の比較					
課税所得	ブラジル >	(OECD			
1. 利益配当	所得発生国で0% (二重 課税防止条約における IRRF予測)	所得発生国で5% ~15%	ブラジルの税収減	今後の交渉におけるバーゲ ニング・パワーの低下	
2. 利子	所得発生国で15% (国内税率と同じ)	所得発生国で10%	高額のIRRFが吸収されて 追加コスト化する	追加コストはブラジルの支払 人に付け替えられる	
3. ロイヤルティー	所得発生国で15% (国内税率と同じ)	0% (居住者のみ)	高額のIRRFが吸収されて 追加コスト化する	今後の交渉におけるバーゲ ニング・パワーの低下	
4. 技術サービス	所得発生国で15% (国内税率と同じ)	0% (居住者のみ)	高額のIRRFが吸収されて 追加コスト化する	今後の交渉におけるバーゲニング・パワーの低下追加、コストはブラジルの支払人に付け替えられる	
5. マッチングクレ ジット	15% ~ 30%	OECD 禁止行為	使用する企業はほとんどない	今後の交渉におけるバーゲ ニング・パワーの低下	

Fonte: CNI

CNIの行動計画

要請

内部議論

ロードマップ作成

調整・適合

決定

目的	行動計画	
参加と影響行使	政府機関と恒久的契約を結びプロセスをリードする。	·
	ワークショップ、法人イベント等への参加	
	宣伝広告(記事、レター等)	
	(コロンビア等の)最近の事例を考慮して、OECDの委員会のテクニカルレビューのプロセスと要求事項を 精査する。	
第三国支援と	OECD加盟国(米国、ドイツ、フランス、日本)が参加する会議等で支援要請を行う。	6
モニタリング	二国間企業審議会のワークプログラムの提言に追加する。	
取組テーマリスト	documentos de posiçãoで 提言を補強する(例、2018年総選挙)	6.
	ブラジルが求められる法律改正の調査・分布。優先順位と産業界への影響。	
	OECDが意識する課題分野とCNIの課題 (例 付録II)	

結論

- 1. OECD加盟の判定には、「先進国クラブ」の維持と影響力の保証とが常にせめぎあっている。
- 2. ブラジルはOECDの各種委員会やメカニズムに最も多く参加する非加盟国のひとつであり、それは加盟審査プロセスにおいて有利に働くと考えられる。
- 3. 加盟審査のプロセスでは、政府および民間セクターが提供するインプットに関して360度評価が行われる。民間セクターからの審査員の関心は産業政策、貿易政策、税政に注がれるものと思われる。
- 4. OECDの特質には適応力、柔軟性、テーマの先駆性、ソフトロー、ガバメント・スクール、ピアレビュー、国内政治プロセスに対する許容力、ポリシースペースなどがある。中でも柔軟性とソフトローはブラジル加盟に有利に働くと考えられる。
- 5. OECD加盟は自然な流れであり、望まれる進路である。

ご清聴ありがとうございました。

コンスタンサ・ネグリ・ビアスッチ 貿易政策部長

cnegri@cni.org.br